エンジョイ園芸

野菜

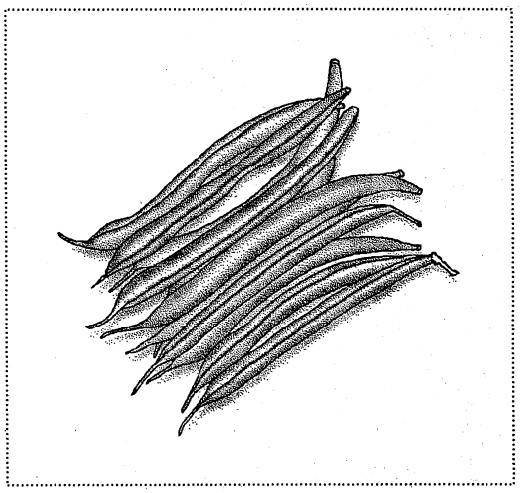
インゲンマメ（早熟栽培）

霜に弱く適温１０度以上

――鮫島　國親

インゲンマメは栄養バランスに優れ，タンパク質，糖質，食物繊維，ビタミンB_1・B_2，カリウムなどが豊富な緑黄色野菜です。わが国では莢用が野菜として利用されています。品種は草丈が２㍍を超えるつる性種と草丈の低いわい性種に分けられます。それぞれ丸莢種と平莢種があります。わい性種は誘引等の管理が楽です。つる性種は長期どりに向きます。鹿児島は全国有数の産地で，温暖な気候を利用した秋から春にかけての生産が盛んです。今回は早熟（トンネル早出し）栽培を紹介します。発芽適温は２０－２５度，生育適温は
１５－２５度です。最低５度まで耐えられますが，霜には弱く，１０度以上が望ましいです。一方，３０度以上では莢の着きが不良になります。連作障害はエンドウほど大きくはないですが，イネ科作物などとの２－３年輪作が望ましいです。種まきの適期は２月下旬－３月中旬で，露地栽培に比べて１カ月ほど早いです。じかまきが一般的ですが，育苗も可能です。

本ぽは日当たり，水はけのよいは場を選び，１平方㍍当たり，苦土石灰１００㌘，堆肥２㌔，化学肥料１００㌘（三要素１５％の場合）を目安として施します。わい性種は，うね幅１．８㍍（床幅１㍍），株間３０㌢，条間６０㌢，二条植えを基準とします。つる性種は株間３５㌢くらいがよいです。うね立て後透明ポリをマルチして，床幅に合わせてトンネルを張ります。２週間はど密閉して種をまく直前に直径５㌢の穴を開けます。種まき（一カ所二粒，発芽後ハサミ等で一本に間引く）後１．５㌢ほど覆土して軽く鎮圧します。低温時期はトンネルを二重にします。３月以降の高温時はトンネルのすそを開け温度が上がりすぎないようにしましょう。晩霜の恐れがなくなったらトンネルを除去し，つる性種は２㍍くらいの支柱を立て，ネットに誘引します。わい性種も短い支柱を立て倒伏を防ぎましょう。種まきから６０日くらいで収穫になります。開花後１５日くらい，莢長１２－１４㌢の若莢を収穫します。



（鹿児島県農業開発総合センター副所長）

平成１９年２月８日（木）／南日本新聞